



【神が下さった我々に旧約と新約】

本日聖書本文: エレミヤ書31:31-34・エレミヤ書31:33

説教者: 鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお元気でしたか。もう10月最後の礼拝となりました。この10月はいかがでしたか。残りの10月も、始まる11月にも主にあつて感謝と恵みがさらに溢れる一週間となるように切にお祈り申し上げます！

教会に通っているのにも関わらずその方々の中でも救いの確信がないまま、信仰生活を過ごしている方々を見る時があります。‘僕は今召されても天国に入れます！’こんな確信はクリスチャンであるなら、だれでも持てる特権ではありますが、このような救いの確信無しで信仰生活を送る方々がいらっしゃいます。

自分の救いの確信がない理由の中の一つはその救いの確信の根拠がまだはっきり分らないからかも知れません。意外と多くの方々にとって救いの確信の根拠というのがその時その時の自分の気分とか感情に左右される場合を見ます。そのためある時は自分自身がきつと救われたような感じがします。

例えば、ある集会やキャンプなどで参加し恵まれている時は自分がまるでよくなっているような感じで、いつでも天国に入れそうな感じがしましたが、集会が終り、帰りの車の中で、あるいは家に帰って家族と言い争いでもすると、自分はやっぱり天国に入るのはまだまだ遠くて、駄目な人みたいな気がします。そのためにある方は集会や礼拝の場に座っているうちに、すぐ天国に入ってほしいという方もいるでしょう。

しかし、愛するみなさん！ここで私たちが考えるべき事は、神の救いに対する確信の根拠は人の気分や感情見たいに頻繁に変わったり、感じるのではなく、神から約束し、結んで下さった神の契約にあります。なぜなら神様が我々を救うために結んで下さった神の契約の根拠によって我々と出会って下さり、契約の内容通り我々に救いを与えて下さるからです。

聖書を見ると、神は我々と2回契約を結んで下さいました。

初めて結んだ以前の契約が旧約でした。二番目に結んだ契約が新しい契約、つまり新約であります。

神との契約は人間同士で結ぶ契約(contract)とは違うため、英語で直訳すると‘言約(covenant)’という単語が使われていません。それにも、日本語聖書ではこの神からの結んで下さったことを契約だと訳されています。それは今日言約だと言うと、契約より弱く聞こえるからだと思います。しかし、人の中で口の約束というのは、例えば、僕があなたを愛しますと言っても裏切ったり、変わったりする場合があるのでもっと法的な拘束力がある契約の表現を使うようにします。実際聖書が教えて下さっている言約は人の契約よりもっと強い拘束力があり、効力を発揮します。

ですから、神の救いへの確信は神様と我らの間に結ばれたその契約の内容を土台とするべきです。ところが、同じ内容の契約が2回もある時は、後に新しく結んだ契約が有効になるように、現在我々と神様との関係は新しい新約に基づいています。ところがクリスチャンの方々の中ではいまだに以前の旧約の下だけに留まろうとする方がいます。

しかし、みなさん、我々が覚えるべき事は、神様はイエスキリストを通して我々と新しい契約を結んで下さいました。

今日われらは契約を結ぶ時、サインをしたり、印鑑を押すでしょう。

神様と結んだ新しい契約は我々を救うために十字架の上でイエスキリストが一滴一滴流したその血潮によって結ばれた契約であります。イエスキリストが我々のために神と新しい契約を結び、救いの道を開いて下さったのです。

ルカの福音書22章20節を見ると、イエスキリストは十字架につけられ、死なれる前日弟子たちと最後の食事を取る時、弟子たちにこう言われました。“食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。」”イエスキリストは私が流したこの血は神と新しい契約のために私がながした血だと教えて下さいました。コリント人への手紙第一11章25節には“夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行ないなさい。」”

ですから主の教会で聖餐式を行うたびに我々はイエスキリストが血潮を流し、現在我々は神の新しい契約の下で生きている事を覚えることであります。我々はイエスキリストによるこの新しい契約に根拠を置きながら、救いの確信を持つ事が出来ます。この新しい契約の内容は新約聖書に記録されています。ヨハネの福音書1章12節にこのように書かれています。

“しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。”

神様が御作りになった契約書にこう書かれているため、我々はイエスキリストを受け入れ信じる時、神の子どもとされる特権が与えられていることを確信する事ができます。なので“私はイエスキリストを受け入れ、信じているから、今夜召されても神の御国、天国に入れる！”あつかましい気分になるかも知れませんが、神様は作成して下さった新しい契約書に基づき、そのように書かれているから大胆に言えるのでしょう。

神の御子なるイエスキリストは人間としてお生まれの前、千年に渡って約40人ぐらいがイエス様に関する預言をしました。そ

してその聖書の預言が全て成就されました。その中の一つの預言がこの新しい契約に関する預言でした。
エレミヤ書31章31節にも神様がイエス様を通して新しい契約を結ばれた事が預言されています。神の預言者だったエレミヤは主前650年ごろ生まれた人です。イスラエルは南と北に分かれて北イスラエルはアシリアに陥落され、南ユダ王国もまたバビロンに陥落されてしまいました。国が残酷に滅亡されて行く全ての過程を眺めていた悲しみの預言者エレミヤを通して

神様が新しい契約を約束された内容が今日の本文の内容です。

“見よ。その日が来る。—主の御告げ。—その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。”
イスラエルの民たちはエジプトの圧制下で400年間奴隷生活をしてきた時、神はモーセという指導者を立て上げ、このイスラエルの民たちを救い出すように導かれました。今日のシナイ半島で契約を結ばれたのが旧約であります。10戒も旧約の中に含まれています。旧約はある面では条件的な契約でした。体系的に**申命記28章**を見ると、神様は戒めを下さってからこう語られました。

2節～6節です。“あなたがあなたの神、主の御声に聞き従うので、次のすべての祝福があなたに臨み、あなたは祝福される。あなたは、町にあっては祝福され、野にあっては祝福される。あなたの身から生まれる者も、地の産物も、家畜の産むもの、群れのうちの子牛も、群れのうちの雌羊も祝福される。あなたのかごも、こね鉢も祝福される。あなたは、はいるときも祝福され、出て行くときにも祝福される。”この御言葉の内容は契約の義務を果たした時の神から許される結果の内容であります。

ところが、神の戒めを守られない場合が**15節以下**に記録されています。

“もし、あなたが、あなたの神、主の御声に聞き従わず、私が、きょう、命じる主のすべての命令とおきてとを守り行なわないなら、次のすべてののろいがあなたに臨み、あなたはのろわれる。”

神の罰の条項(じょうこう)でした。しかし、イスラエルの民たちは神とその契約を結んでから守らなかったです。その結果、イスラエルの国全体が滅んでしまいました。

イスラエルの民たちはどうして旧約を守られなかったのでしょうか？彼らは神の御心に心から従おうとする気もなく、神の命命通りに守れる力もありませんでした。でも、神はそれでもご自分の民を見捨てませんでした。そして神は将来救い主を通して新しい契約を約束され、新しい契約は以前の契約とは違うのだと語られました。その内容が**エレミヤ書31章32節**に書かれています。“その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。—主の御告げ。—”

今日の聖書本文を見ると、神の新しい契約の内容は何でしたか。

一つ目、神の御心通り生きたがる心を与えて下さると約束して下さい。

“彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。—主の御告げ。—わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。”(33節)

神の御心と戒めが必要で良い物であり事を知っていながら、守れる力も、能力もありませんでした。

それで、新しい契約の下では神の御心通りに生きたがる志もいれて下さり、その御心通りに生きれる力も植えて下さる事を約束されたのです。‘彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす’という御言葉はその意味であります。

二つ目、誰にも神を知る事が出来るようにさせて下さると約束されました。

“そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。—主の御告げ。—わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。』”(34節)

ここで“知る(ヤダー)”という意味は頭の中で知ることじゃありません。体験的に知ることの意味であります。

神は新しい契約の下では身分の低い者、若い者から高い者、年配の方に至るまで神を親密に、体験的に知ることになる事を約束されたのです。旧約の時には神に選ばれたイスラエルの民とそれ以外の一部分だけに神との契約の中に入れるよう許されましたが、新しい神の契約の中には誰でも神と結び入れるように道を開いて下さいました。

三つ目は、我らの罪を赦してからはその罪に対して決して思い出さない事を約束されました。

34節後半です。“—主の御告げ。—わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。”

愛するみなさん、我らが神の新しい契約の下にいれば、神は私たちに神の御心通り生きれる心と力を下さり、体験的に真の神を知らせ、我らの全ての罪を赦して下さいます。ですから、未だに神の御子イエスキリストを唯一の救い主として受け入れ、信じてない方々は、今でもまず、イエスキリストを受け入れ、神様とのこの新しい契約関係に入って来る事が優先です。

ある方は切るべき事は切り、捨てるべき事は捨て、生活を完全に整理し、全てをコントロールし、何でも解決できる力が自分にあるならば、真の神の存在は入らないかも知れません。一度のこの人生って言うものがそうではないため、自分にはコントロールする力が人にはないため、全能なる神の助けが必要ではありませんか。イエスキリストを受け入れ、新しい契約の中に入れば、新しく生きれる力が与えられます。

ある方はキリスト教についてもっと知ってから信じて見ると言われます。

しかし、イエスキリストを真に知るためにはまず、この神の新しい契約に入らなければなりません。

“そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。”(34節)

この神の新しい契約に入ってからになってようやく神のその御言葉が理解し始め、神を正しく知る事が出来るようになります。あんまりにも今までたくさんの罪を犯してしまい教会に通えないと思っている方であっても一緒です。罪が多いからこそ、この神の契約関係に入るべきです。それで、罪赦しを受けるべきです。

未だに、以前の神の契約の下で過ごしている方はもうこれ以上旧約時代に生きた人々のように義務感や罪責感の中にとどまらないで、神の新しい契約の中にジャンプして入って来て下さい。そしてこれから真の神に委ねつつ主の導きを受けながら、生きれるみなさん一人一人となりますように切にお祈り申し上げます。

新約聖書の下にいる方は神を知る事が出来ます。そのため神の御心も知る事が出来ます。これが新しい神の契約の下でイエスキリストを信じる者たちが味わえる特権なのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん、神はみなさんにもう遠く離れておられる方ではありません。悲しい時は慰め、迷っている時は智慧を与え、弱い時は力を与えて下さるお方です。神の新しい契約、新約の下で生きている者たちには全ての罪が赦されたので、もう以前の罪のため苦しむ必要はありません。神御自身がもう二度も覚えないと約束して下さったからです。あるクリスチャンの方々の中で思わぬ事故に会うと、昔の自分が犯した罪のため罰を受けた事とおっしゃる方がたまにいますが、その話は正しくありません。なぜなら、我らの救い主イエスキリストが我々が受けるべき全ての罪による天罰を全部受けられたからです。ですから、神の御前に大胆に出て来て下さい。神は‘罪を赦し、二度も覚えない！’と約束して下さったなら、疑わないで、その通り信じて、大胆に父なる神の助けを求めて下さい。

今日の御言葉を通して、信仰の根拠は気分や感情、あるいは体験として感じる事において置かないで、神の新しい契約、新約の土台に置いて置いてください。イエスキリストが十字架で血潮を流し、成して下さった神の新しい契約の内容をよく覚え、神のこの新しい契約、新約に根拠と土台をしっかりと置く事により、これからも揺るがない恵みの信仰生活を続けるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます。アーメン！